

2012年度・第二演習の記録

<前期>

- 4月12日：芦名定道「オリエンテーション」、「トーマス・F・トランス（芳賀力、岩本龍弘訳）『キリストの仲保』キリスト新聞社、2011年。」
- 5月10日：方俊植「ジョン・ヒック先生 追悼講演会&研究会 自由意志と決定論の問題」
岩井謙太郎「シュヴァイツァーにおける諸宗教の問題について 「生への畏敬」の世界観の構想をめぐって」
- 5月24日：上原潔「マルティン・ハイデッガーとマルティン・ルター 初期ハイデッガー哲学におけるルター神学の影響」
朴鍾順「植村正久と文学」
- 5月31日：南翔一朗「「理性的信仰」 カント哲学における信仰と理性」
スティグ・リンドバーク「賀川豊彦の東洋思想の理解と評価」
- 6月07日：渡部和隆「内村鑑三のキリスト教思想の研究 その哲学的背景と聖書解釈の観点から」
金香花「聖書翻訳における等価概念の一側面 翻訳学の角度から日中韓聖書翻訳における等価概念を見る」
- 6月14日：谷塚巖「仮名による「現実性」の理解の試みについて 『哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき』から」
洪伊杓「「敬神思想」を通じた海老名弾正の神道理解 『基督教提要』、『基督教十講』、『新日本精神』を中心に」
- 6月28日：南裕貴子「ティリッヒの「調停」する神学 道德と宗教についての問いから」
張旋「リューサーのフェミニズム神学による終末論批判」

<夏期・大学院生研究発表会>

8月30日・31日

- 南翔一朗：書評「ヨハネス・ヴァルマン（梅田與四男訳）『ドイツ敬虔主義 宗教改革の再生を求めた人々』日本基督教団出版局、2012年。」
- 上原潔：書評「ヨゼフ・ルクル・フロマーカ（平野清美訳、佐藤優監訳）『神学入門 プロテスタント神学の転換点』新教出版社、2012年。」

<後期>

- 10月04日：芦名定道「オリエンテーション」、「書評：星川啓慈『宗教と他なるもの 言語とリアリティをめぐる考察』春秋社、2011年。」
- 10月25日：方俊植「宗教の複数性をめぐる諸問題 カントウエル・スミスの議論を中心に」
岩井謙太郎「シュヴァイツァーの世界観と生命観の諸問題 遺稿『生への畏敬の世界観』を巡って」

- 1 1月01日：上原潔「マルティン・ハイデッガーとマルティン・ルター 初期ハイデッガー哲学におけるルター神学の影響 Exkurs：コメントに対する応答」
朴鍾順「日本文学とキリスト教」
- 1 1月08日：南翔一郎「カント哲学における信仰の概念」
スティグ・リンドバーグ「賀川豊彦における第三の道 「友愛の政治経済」論 世界連邦に至る「主観経済の原理」」
- 1 1月22日：渡部和隆「内村鑑三の文学観 言語と翻訳の観点から」
金香花「聖書翻訳における等価概念の一側面」
- 1 1月29日：谷塚巖「キルケゴールと「倫理的なもの」 『あとがき』における信仰論との関連で」
洪伊杓「海老名弾正の「神道」理解に関する類型論的分析」
- 1 2月06日：南裕貴子「道徳と宗教の問いを巡るティリッヒの神学」
張旋「リューサーのフェミニスト神学における方法論、資料、標準」